

趣 意 書

現在、医用原子力技術は、社会の中のさまざまな医療の現場で活用され、欠かすことの出来ない技術として、医療福祉の向上に多大な貢献を果たしております。当財団は、平成8年3月の設立以来、この医用原子力技術に関する研究を推進するとともに、その普及を図ることにより、科学技術の振興を図り、もって人類の福祉向上に寄与するという目的のもと、「粒子(重粒子・陽子)線がん治療」、「ホウ素中性子捕捉療法」、「X線など光子線・電子線、小線源等による治療」、および「X線または核医学(RI)等の診断」の各分野に係る事業活動を展開いたしてまいりました。その後平成24年4月には、国の公益法人制度改革にともない、組織統治・体制等に係る所要の整備を終え、「公益財団法人」へと移行いたしました。さらに新法人移行を契機に、医用原子力を取り巻く情勢および将来を展望し、財団が負うべき社会的使命を考慮しつつ、事業の選択と集中との観点から、各事業の内容および財務の今後の運営方針を策定し、自立的、安定的で健全な運営へ向け、組織変革を進めてまいりました。

当財団は、国や自治体、あるいは民間営利企業とは異なる重要な役割を、非営利・公益的組織の立場で担っております。例えば、粒子線治療等の先端的医療分野においては、施設の建設計画から運用開始および維持・発展に至る各プロセスで、施設整備促進、人材養成等の重要な事業を実施し、プロジェクトの進展や施設運営を側面から支えております。また、放射線治療の精度向上および品質管理の分野においては、第三者機関として線量校正の事業を実施しており、5学会・団体の監理のもとに国内で唯一の組織としてその重要な任務を担っております。とりわけ、治療用線量計校正事業は、(独)製品技術評価基盤機構(NITE)によって計量法校正事業者認定制度(JCSS)の登録事業者認定を受けており、放射線治療分野における二次標準機関として、現在では、全国のほぼすべての設置施設からの依頼を受けるに至っております。さらに普及啓発分野では、専門性の高い能力と実績、経験を活かし講演会等の運営、広報誌、小冊子、パンフレット等の製作により、中立的・公益的な立場で広く一般社会へ向けた情報発信を行っています。

医用原子力技術は、その直接的な貢献のみに留まらず、原子力分野全体の発展を支える重要な機能をもあわせもっております。原子力技術と社会との共生を実現していくためには、現在、国民が懸念をもっております放射線についての正確な理解とともに、放射線利用の便益もあわせて実感していただく必要がありますが、医用原子力技術の成果は、人の生命身体に係る最も重大な関心事であるだけに、

放射線利用の中でも恩恵として受け取られる評価も相応の大きなものであり、原子力技術利用への国民の理解促進および合意形成にも大きく寄与しているといえます。

将来も医用原子力技術は、宗教や民族、時代を超えて多くの人々から受け容れられ、わが国および世界の持続的で健全な発展にとって、ますます重要性を増していくことが期待されております。当財団は、国内はもとより国際的にも直面する様々な課題の克服に一層精力的に取り組み、その広範かつ重要な使命の担い手として、総力を結集して責務を果たしていく所存でございます。つきましては、私どもの事業活動の趣旨にご理解ご賛同を賜り、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

平成27年7月吉日

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団

理事長 **垣添忠生**